

「雷雲の観察(1)」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

7月下旬から8月上旬にかけて、全国的に「大気の状態が不安定」で、関東地方にも連日のように雷雲が発生していた。雷(電光、雷鳴、幕電など)を発生させる雲は何種類かあるが、「雷雲」というと「積乱雲」をさすことが多い。(乱層雲も雷を発生させる)

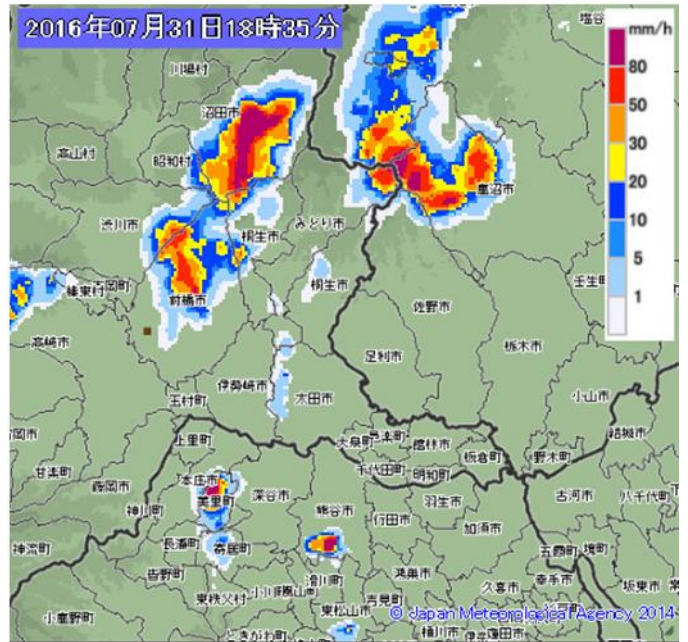


上写真は7月31日夕刻の「入道雲」である。(東京大学構内で撮影)雲頂はまだ圏界面(対流圏と成層圏の境界面=約12000m)に達しておらず、この時点では「積乱雲」というよりは、まだ「雄大積雲」である。

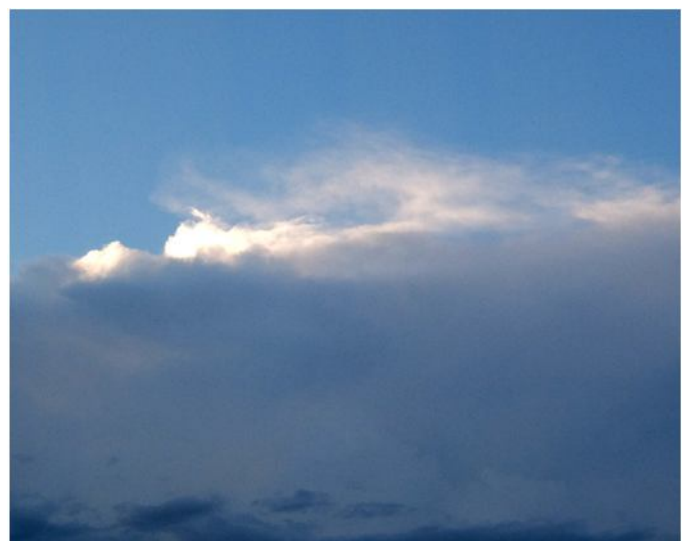


その後私は上越新幹線に乗った。上越新幹線の太宮～上毛高原間は、日本屈指の雷雲の好発生地域で、雷雲の観察には非常に適している。この日も、右車窓(北

側)にいくつもの積乱雲(列積乱雲)が観察できた。新幹線は雷雲の移動速度の8～10倍の速度で走るのので、一つの積乱雲(列)を、ほぼ同時刻にいろいろな角度から観察できるという利点もある。



上図は左下写真と同時刻の「高解像度降水ナウキャスト」である。私が撮影した積乱雲は、図の左側の縦に並んだ雲列である。



雄大積雲とちがい、積乱雲は雲頂が圏界面に達し、横(観察者から見ると手前にも)広がっている。「キノコの傘」のような形状だ。その先端部には、綿状の「擬巻雲(ぎけんうん)」が見られた。